

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上 千代美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、目の動きは人の精神生理的な指標であり、目の動きにはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 塩田 昇, 廣瀬 理絵, 松山 美幸, 加藤 法子, 藏元 恵里子, 田中 美智子, 江上 千代美「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 桑野瑞恵, 塩田昇, 山下裕史朗. ポピュレーションアプローチを目指した地域での前向き子育ての実践. 小児保健研究 80(3):303-306 (2021).
- ・ 江上千代美, 塩田昇(2020). Child Adjustment and Parent Efficacy Scale – Developmental Disability (CAPES-DD) の日本語版作成の試み福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 37-45.
- ・ 江上千代美, 塩田昇, 恵良友彦, 田中美智子(2020). 発達障がいのある児の母親の養育レジリエンスの向上を目指して – Stepping Stones Triple P (トリプル P) による RCT を用いた試行的介入 –, 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 1-4 .
- ・ 江上千代美, 田中美智子, 松浦江美, 安酸史子(2020). 関節リウマチ患者に対する慢性疾患セルフマネジメントプログラムの効果 – 唾液コルチゾール・RR 間隔・DAS28・VAS 指標を用いて –, 福岡県立大学看護学研究紀要, 17, 27-35.

②その他最近の業績

- ・ 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第 42 日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響—POMS、唾液コルチゾール—. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.
- ・ 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 江上千代美. 第 81 回日本公衆衛生学会
- ・ 江上千代美, 山下裕史朗(2015). 発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~, 第 24 回日本 LD 学会, 佐賀, 349-350.

③過去の主要業績

- ・ Yushiro Yamashita, Chiyomi E et al. :Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・ Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2015 年度～2018 年度 交付金額 4,810 千円

研究課題、トリプル P 介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）2018 年度～2021 年度 交付金額 4,290 千円

発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上・基本的生活習慣の習得を目指して・

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 2022 年度～2025 年度） 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：江上千代美）

4. 受賞

5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6. 担当授業科目

<学部>

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期，生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期，生態・病態看護学実験 2単位・2年次，専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年，総合実習・2単位・4年次・前期，生態機能看護学Ⅲ、卒業研究・2単位・4年次・通年，

<大学院>

Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年次、基盤看護学特別研究 8単位
実験看護学演習 2単位・1年次 実験看護学特論 2単位・1年次

7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・田川市・香春町・志免町・朝倉市

8. 学外講義・講演

子育て支援に関する講演会の講師

9. 附属研究所の活動等

久留米大学